

令和5年度 光化学スモッグの状況について

1 光化学スモッグ注意報等発令状況

令和5年度光化学スモッグ注意報等発令回数は予報6回、注意報6回でした（令和4年度は予報9回、注意報5回）。

県南中部地域の光化学オキシダント濃度の最高濃度は7月3日に大宮測定局で観測された0.144ppmでした。（令和4年度は7月1日 和光測定局0.170ppm）
月別にみると発令は7月が4回と多く、5月、9月が1回となりました。

7月下旬は、東日本の太平洋側で晴れて気温の高い日が多かったため、光化学スモッグが発生しやすい状況になりました。また、昨今の気候は、初夏でも気温が高くなり、残暑も厳しいため、夏場に限らず光化学スモッグが発生しやすくなっています。

なお、光化学スモッグによると思われる健康被害届出、および植物被害届出はありませんでした。

令和5年光化学スモッグ注意報の発令状況

月日	注意報発令時刻	解除時刻	発令状況		延べ回数
			最高値(ppb)	出現時間	
5月18日(木)	14時20分	16時20分	和光、上尾(123)	14、15時	1
7月3日(月)	15時20分	18時20分	大宮(144)	16時	2
7月25日(火)	15時20分	18時20分	上尾(128)	17時	3
7月26日(水)	13時20分	18時20分	上尾(140)	16時	4
7月27日(木)	13時20分	16時20分	大宮(134)	14時	5
9月28日(木)	16時20分	17時20分	戸田(120)	16時	6

2 今後の対策

光化学オキシダントの主な原因物質といわれている窒素酸化物（NOx）と揮発性有機化合物（VOC）の削減のために以下の取組を行います。

NOx 対策については引き続き大気汚染防止法に基づく発生源からの排出抑制や自動車利用の抑制、エコドライブ、次世代自動車の普及促進に努めます。

VOC 排出抑制対策としては、工場・事業場に対する法による排出規制と事業者の自主的取組による排出削減を図ります。特に夏季のVOC削減について、周辺自治体と広域的な連携のもと、排出削減を図ります。

また、市内に設置されている大気測定局により大気汚染状況の監視を実施するとともに、市民への迅速な情報提供を行います。

用語の解説

○光化学スモッグとは

工場や自動車から排出される窒素酸化物や炭化水素が、太陽からの紫外線により光化学反応を起こして光化学オキシダント（おもに酸化性物質）が生成されます。この濃度が高くなると、のどが痛くなったり、目がチカチカします。これが光化学スモッグといわれているものです。日差しが強く、気温が高く、風が弱い等の条件の日に高濃度になりやすいことがわかっています。

○光化学スモッグ注意報等とは

【発令の内容】

光化学スモッグ予報

気象状況からみてオキシダント濃度が 0.12ppm 以上になると予想される時

光化学スモッグ注意報

オキシダント濃度が 0.12ppm 以上となり、その状況が継続すると認められる時

光化学スモッグ警報

オキシダント濃度が 0.20ppm 以上となり、その状況が継続すると認められる時

光化学スモッグ重大緊急報

オキシダント濃度が 0.40ppm 以上となり、その状況が継続すると認められる時

【発令地区】

光化学スモッグ情報は埼玉県を 8 つの区域にわけてお知らせしています。さいたま市は県南中部地区に所属しています。